**２０２０年度　入門講座**

９月１３日（日）

**第１３課　「ザアカイ」**（ルカ；19：1－10）

Ⅰ出会い；

　「出会い」とは、主に二人の人の間の特別な関わりを示している。そこには人と人との心の一致、また相互の深いコミュニケーションがある。つまり一つの存在が他の存在と交り、分かち合うという要素が含まれている。

マルティン・フーバー：「相手の人が他人ではなくて、わたしにとっての『あなた』になる」と言っている。

1. あなたの人生に最も影響を及ぼしたと思う人は誰ですか？

　　②　その人があなたに与えた影響の説明も加えてください。

Ⅱキリストと出会った人；ザアカイ

Ⅰ地理的、時代的背景

1. エリコ；首都エルサレムから４０km、死海の北方１０kmに位置する町。ヨルダン川の近くにあって、エルサレムやエジプトに通じる重要な位置を占めていた。商業の中心地で、大勢の徴税人がいた。また、パレスチナでもっとも肥沃な土地で、農業産地の一つでもあった。エルサレムが政治と宗教の中心であったのに対し、エリコは経済と文化の中心的重要な都市で、ローマの経済的基盤を支えていた。
2. イエスの時代、パレスチナはローマの支配下にあって、ローマ軍によって支配されていた。ユダヤ人にある程度の自治と宗教的自由を認める一方で、税の徴収によって利益を得ていた。彼らはローマから給料をもらうのではなく、ローマに納める税金に自分の取り分を上乗せして財を蓄えていたので、不正が多く、ユダヤ社会の中で「罪人」というレッテルを貼られていた。

Ⅱ　「ザアカイ」の物語を観察力や想像力を働かせて読む。

「ザアカイ」という名前は、｢正しい、清い｣という意味を持っている。徴税人の頭であり、大金持ちであったザアカイは、一般の市民からは嫌われていたと同時に、恐れられていた人でもある。ひとかどの尊敬に値する市民は、彼と決して交際しなかったので、彼は寂しい人であった。ルカのみ描いている。

1. この箇所を読んで、印象的なところや自分の常識と違う点を挙げてみよう。
2. この物語には、イエスを見「ようとした」ザアカイと、失われたものを「捜して」救うために来たイエスとの出会いが描かれている。

十字架の待つエルサレムに向かうイエスの最後の旅の途上での出来事。最後まで神の愛と赦しを告げる旅でした。

1. 出会いを表しているキーワード（５節）

＊「その場所」

「その場所」には冠詞がついているから、イエスとザアカイの出会いが起こった場所は定められた場所であった。

　　　　　＊「今日」

　　　　　　　「今日」は昨日と明日の間の平凡な日ではなさそうである。「今日という今日」は待ちに待った特別な今日。

　＊「ぜひ・・・たい」

1. 「今日、救いがこの家に訪れた」（９節）
* 「救い」とは何か？
* 今のあなたにとって「救い」とは何か？

　　**「救い」とはその人の心や周囲に｢神の国｣が始まったということである**。

人間は本来あるべき姿に戻ること。（人間はあるべき姿からから逸脱して生きている）

　　共同体から孤立してしまった人間であったザアカイが、**イエスとの出会いによって救われる**。

一人ぼっちでさびしいザアカイはお金に依存していた。自分の安定を何に置くか？

彼はありのままの自分を受け入れてもらえるイエスと出会い、もうこの世的なもの、

お金に依存しなくても良くなる。

自分を決して見捨てない方との出会いの喜びは、他者へ向かう。

精神的次元での人間同士のつながりは、人間が神につながっていることのしるしで

ある。

4．　変貌の根底にあるものは何か？

この出来事の中心はザアカイの変貌にある。彼の人生に決定的変化が起こったと言える。**不思議なことに、イエスに触れてもらった人は心を翻してイエスに従うものになっている。**

　　　イエスが誠実に自らを賭けたので、ザアカイも思い切って自己を変える勇気を出せた。イエスの無防備の自己とザアカイのありのままの自己が出会ったときのみ真の変化が起こる。

* ザアカイの心の壁を突き崩したのは一体何だったか。

「今日」ぜひあなたの家に泊まりたい。ありのままの自分を受け入れられた。

* 「啐啄同機」ということ

啐は鶏卵が孵化しようとするとき、ひよこが殻の内側から突っつくこと。啄は親鳥が殻の外から突っつくこと。機を一にするとき、殻が割れてひよこが生まれる。

禅宗の言葉で、啄に当たるのが禅師で、啐に当たるのが弟子。

師弟の機鋒（ほこさき）が一致した時弟子が悟る。

　　 この言葉をキリスト教に当てはめると、神への招きが啄、人間の側が啐

５．「盲人とイエスの出会い」との比較

＊「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。

(ルカ１８：３５－４３)

　　＊身を隠していたザアカイは、主イエスによって捜し出された。

両者に共通するのは、イエスとの出会いを求めていたからこそ、イエスに、捜しださ

れて、愛と赦しを受けた。（放蕩息子）

当時の人たちは、すべての病気や障害が罪の故であると考え、悪霊・悪魔の支配下にあるものと考えていた。イエスはそのような人を癒すことができた。イエスはそういう人たちに近づき、悪魔を追い出され、神の支配に立ち返った。健康を取戻し、普通の社会生活に戻っていけるようになった。

キリスト教の中心は教義でもなく、戒律でもなく、イエス・キリストという人物である。信じる者になるということは、イエス・キリストとその人との出会い、キリストとの友情の交わりを結ぶことである。